

「医療における安全文化に関する調査」実施施設募集のお知らせ

医療安全の向上にご尽力いただきありがとうございます。諸外国及び医療安全全国共同行動では、医療安全を組織的に推進するうえで重要とされる安全文化の醸成に寄与し質・安全向上の取組みの効果を可視化する方法の一つとして、「医療における安全文化に関する調査」（以下、**安全文化 調査**）の活用を推奨しています。同調査は米国 AHRQ が提唱し、国立保健医療科学院が実施した厚労科研費事業のパイロットスタディで日本版の有用性が確認されました。このたび、同事業の研究チームとデータ処理を担当した MDB 社のご承諾を得て、希望施設での調査実施が可能になりましたのでお知らせいたします。調査結果の報告例と活用方法の説明を以下に抜粋しましたのでご参照ください。また調査結果の活用方法の参考として“安全文化を醸成するチーム STEPPS”の教材の一部を提供します。

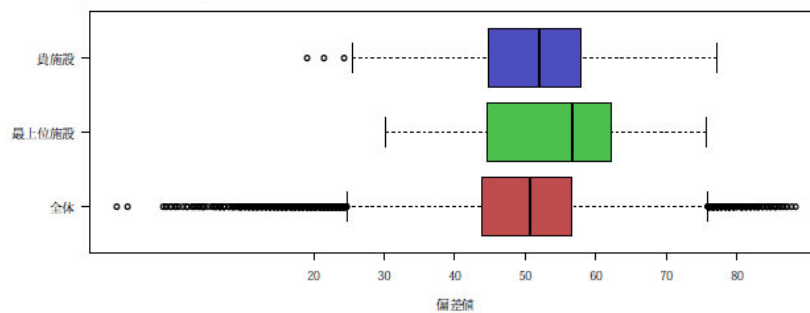
(研究開発 代表者 種田憲一郎)

◆ 調査を実施される施設へのフィードバック

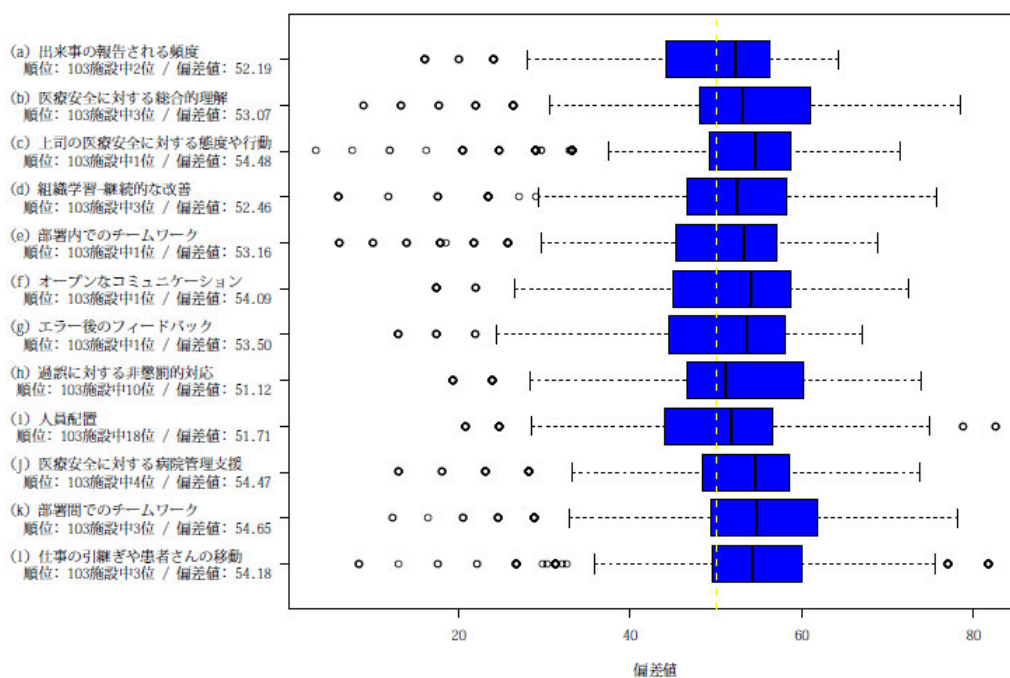
(1) 総合ランキング：他施設との安全文化の比較（例）

*のべ 173施設 134,395名（115施設 85,988名）

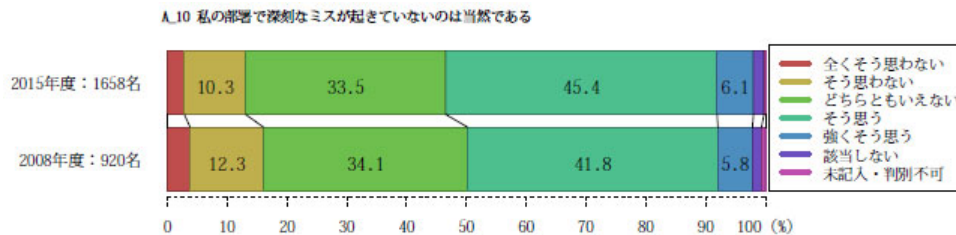
順位：91施設中24位 / 偏差値：51.92



(2) 安全文化を構成する 12 側面別ランキング（例）



(3) 項目ごとの経年変化 (例) * 複数年参加された施設のみでの配布になります



◆ 医療における安全文化

- 安全文化は厚生労働省・医療安全対策検討会のヒューマンエラー部会において、平成 13 年に提案された「安全な医療を提供するための 10 の要点」の第一にあげられている項目です。
- 医療における安全文化とは、医療に従事する全ての職員が、患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方およびそれを可能にする組織のあり方とされています。

◆ チーム医療と安全文化

- 近年チーム医療の重要性が医療安全の点からも再認識され、チーム医療を推進するための様々なチームトレーニングも行われ始めています。
- 米国連邦政府が推進するチームトレーニングであるチーム STEPPS (チームステップス) は、この安全文化を醸成する一つの方法として提案されており、必用な事前のニーズ評価としても、この安全文化調査が推奨されています。

◆ 調査の目的および活用

- 安全文化を測定して、改善点を明確化する
- ベンチマーキング ○ 医療安全を推進する活動による経時的変化をみる(事故の有無だけでは評価困難です)

◆ 調査票の妥当性

- 安全文化と調査するツールである調査票は、米国 AHRQ により開発され妥当性が既に示された質問票であり、45 カ国で使われています。
- 日本語版は統計的な妥当性を評価し、言語学的妥当性を担保するために翻訳・再翻訳を繰り返し、ネイティブスピーカーや言語学の専門家と共に作成しました。

◆ 参考文献等

- [1] 厚生労働省. ヒューマンエラー部会安全な医療を提供するための 10 の要点, 2001 (<http://www.mhlw.go.jp/topics/2001/0110/tp1030-1f.html>)
- [2] Sorra JS, Nieva VF. Hospital Survey on Patient Safety Culture. AHRQ Publication No. 04-0041, 2004
- [3] 種田憲一郎, 奥村泰之, 相澤裕紀, 長谷川敏彦. 安全文化を測る: 患者安全文化尺度日本語版の作成, 医療の質・安全学会誌, 第 4 巻第 1 号, 2009
- [4] 種田憲一郎. 研究代表者. 厚生科学研究費補助金・医療安全・医療技術評価総合研究事業「医療安全推進に必須の組織文化(安全文化)の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用」(課題番号: H19-医療一般-002) 平成 19-21 年度総合研究報告書; 2010

◆ 調査の実施体制について

研究開発者は調査の質管理と調査結果の活用に関する助言を担当し、データ処理を含む調査の実施業務は有限会社 MDB（医療における安全文化に関する調査事務局）が担当致します。調査実施にかかる契約は希望施設とMDB との間で行っていただき、研究開発者は契約や費用に関与いたしません。

◆ データの活用について

- ご参加頂いた施設のデータは、データ入力後、必用に応じて個人が特定されない編集をして、ほとんど全てのデータを各施設にお返しいたします。さらなる分析等にご活用下さい。
- 安全文化調査チームは、今後の医療安全の推進のために、個人・施設が特定されない形で集計した結果のみを、学会、学術誌等で発表させていただきます。

◆ 実施施設にご担当いただく作業事項

- 調査の前に：部署ごとの安全文化を評価するために、部署名の一覧表を作成
- 調査票が届いたら：調査票が届きましたら各部署へ配布し、約 2 週間後に回収。この際、各部署への配布数は同封する回収報告書等を活用し、ご報告下さい。
- 調査票を回収後：調査事務局に調査票を返送。入力・簡易集計を事務局で行い、複数回答や自由記載 などに関して、事務局からお問い合わせした際のご回答をお願いいたします。

◆ 調査費用

- 調査基本料金 1 施設当り 30,000円（税別）
調査参加予定人数 1 名当り 160円（税別）
【例】調査参加予定人数 1,000 名の場合
 $30,000円 + 1,000名 \times 160円 = 190,000円$ （税別）
※調査期間やその他条件等、詳細は御見積申し上げます。
- 上記の費用に含まれるもの
調査票、部署一覧、回答後に密封できる封筒
データ入力、集計・分析、調査票の溶解
- 上記の費用に含まれないもの
個別オプション集計
調査票の送付料金は別途、ご負担下さい。
- 平成29年4月1日（2017年4月1日）以降実施の調査より、調査料金が変更となります。

◆ 申込方法

所定の用紙にて下記あて FAX でお申込みください。

FAX 送付先：03-5577-6273

◆ 調査方法に関するお問合せ

医療における安全文化に関する調査事務局（有限会社MDB内）

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-6-8 伸幸ビル 7F

TEL：03-5577-6272（医療安全文化調査事務局）03-3296-1555（有限会社MDB）

FAX：03-5577-6273

e-mail：med-safe@mdbj.co.jp